

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006-2009

課題番号：18520292

研究課題名（和文） 前2-1千年紀における北西セム語の等語線の再画定：
GISによる言語地理学的研究

研究課題名（英文） Reexamination of Isoglosses of Northwest Semitic Languages in the second and
First Millennium B.C.E.: GIS driven linguistic geography

研究代表者 池田 潤 (Ikeda Jun)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授

研究者番号：60288850

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：言語学、言語地理学、北西セム語、言語地図、GIS

1. 研究計画の概要

(1) 地理情報システムによる言語地図の作成：GISは空間データに文字データを連動させることができるため、空間データと文字データを組み合わせた検索をおこなうことが可能となる。この特性を活かし前2-1千年紀の北西セム語言語地図を作成することにより、等語線の再画定を試みる。

(2) 前2千年紀と前1千年紀の言語データを連動させた通時的言語地図の作成：時代の異なる複数の言語地図を連動させると、言語的特長の共時的な分布が通時的にどう変化したかを可視化することができる。時間と空間という2つの次元をダイナミックに制御した言語地図が作成できれば新たな言語地理学的知見が得られるはずである。本研究では、前1千年紀の言語地図を作成するのと平行して、アマルナ語のデータをもとに前2千年紀の言語地図を別途作成し、時代の異なる言語地図を連動させる方法を模索する。

2. 研究の進捗状況

前2-1千年紀における北西セム語の等語線の再画定に向け、初年度は、まず必要となるハードウェアとソフトウェアを発注した。また、テルアビブ大学の S. Izre'el 教授に連絡をとり、今後の研究の進め方に関してアドバイスを受けた。

2007年6月からアマルナ語および北西セム語のデータベースのXMLタグ構造の検討を開始した。

同年7月からは、二次文献を参照しながらアマルナ語のデータを整理・修正し、順次コンピュータに入力する作業を開始した。

2008年3月に山口大学に研究代表者と研究分担者が集まり、1泊2日でミーティングをおこなった。この場で、業者とラスターデータ化している西南アジア言語地図を緯度・経度の入った詳細なベクトルデータに変換するための打ち合わせをおこなった。

同年7月14日に筑波大学東京キャンパスに研究代表者と研究分担者および2名の研究協力者（大学院生）が集まり、XMLデータベースとGISサーバを連動させるためのプログラム開発に係る詰めの打ち合わせをおこなった。これに基づき研究協力者が同年度内にVBAプログラムを完成させた。

これと並行して、上記プログラムで用いる位置情報を確定するために先行研究を精査した。その際、とくに粘土板の成分分析に関する研究成果に注意を払い、結果として得られたアマルナ書簡の発信地とその緯度・経度をコンピュータに入力した。

こうして、2009年度には、XMLでマークアップされ、位置情報を有する言語データベースを検索し、検索結果をGISに送って地図化するプログラムのパイロット版が動くようになった。目下、アマルナ語およびカナン語・アラム語の言語データのXMLによるマークアップを鋭意進めているところである。

また、パイロット版のプログラムを用いて、試験的に言語地図を作製した結果、いくつかの事例に関して言語地理学的新知見を得ることができた。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

（理由）

プログラムの開発には GIS、サーバ、セム語、楔形文字、西セム文字、Unicode 等に関する知識が必要となるが、これらの条件を満たすプログラマーが見つからず、プログラムの開発・点検・修正に予想以上の手間と時間がかかってしまった。

アマルナ語研究班もカナン語・アラム語研究班も言語データの XML によるマークアップを 2008 年度中に完了する予定であったが、上記の作業に時間をとられたこともあり、まだ完了していない。

2008 年度に S. Izre'el 教授 (テルアビブ大学) を招聘して、これまでの研究に関するレビューを受ける予定であったが、先方の都合で来日が延期された。

4. 今後の研究の推進方策

プログラムの修正は終わったので、言語データのマークアップさえ完了すれば、当初の目的を達成できる段階にようやくたどり着いたと言える。最終年度の前半に言語データのマークアップを完了させ、年度内に様々な言語地図を生成できる態勢を整えたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- (1) 池田潤「GIS を用いたアマルナ書簡の言語地理学的研究 (1) : 動詞語尾 -(n)na の地理的分布」『一般言語学論叢』11 号, 139-156 頁, 2008. 査読有り
- (2) 竹内茂夫「聖書ヘブライ語における同語反復的不定詞絶対形 : 否定詞の現れ方から見た語順」『一般言語学論叢』11 号, 127-138 頁, 2008. 査読有り
- (3) 池田潤「カナン発信のアマルナ書簡の位置情報について」『一般言語学論叢』10 号, 93-116 頁, 2007. 査読有り
- (4) 池田潤「GIS と言語研究」『一般言語学論叢』9 号, 1-10 頁, 2006. 査読有り
- (5) 竹内茂夫「XML を使った北西セム語のタグ付け」『一般言語学論叢』9 号, 11-30 頁, 2006. 査読有り
- (6) 乾秀行「GIS を使ったクシ・オモ系言語研究」『一般言語学論叢』9 号, 47-58 頁, 2006. 査読有り

[学会発表] (計 4 件)

- (1) 池田潤 “Diglossia in Emar.” 53e Rencontre Assyriologique Internationale, 2008 年 7 月 23 日, ロシア人文大学.
- (2) 池田潤 “Early Japanese and Early Akkadian Writing Systems: A Contrastive Survey of Kunogenesis.” International Symposium on the

Origins of Early Writing Systems, 2008 年 10 月 6 日, 北京大学.

(3) 池田潤「GIS を用いたアマルナ語の言語地理学的分析 : 概観とケーススタディー」西アジア言語研究会, 2008 年 12 月 6 日, 京都産業大学.

(4) 竹内茂夫「聖書ヘブライ語における同語反復的不定詞絶対形 : 否定詞の現れ方から見た語順」西アジア言語研究会, 2008 年 12 月 6 日, 京都産業大学.